

令和 5 年 6 月 19 日現在

機関番号：12602

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H03920

研究課題名(和文) 看護組織の協働学習型マネジメント力育成システムの開発：教育プラットフォームの創成

研究課題名(英文) Development of a Management Competence Building System for Nursing Organizations using Collaborative Learning: The Creation of an Educational Platform

研究代表者

緒方 泰子(Ogata, Yasuko)

東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・教授

研究者番号：60361416

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、看護師長、主任や副看護師長等のプレミドルマネジャー層を対象に、協働学習による省察と対話を通じてマネジメント実践と知識を統合させる学習システムを開発する予定であった。新型コロナウイルス感染症パンデミックの影響により、実現可能な研究計画へ修正し、開発予定であった協働学習の手法を看護管理者に対して複数回試行し、効果的な学習に必要な要件として「心理的安全性」の必要性を見出し、看護管理者の学習ニーズ等を質的に示した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の成果は、新型コロナウイルス感染症の流行が持続したことにより制約を受けた。しかしながら、マネジメントに有用な知識を用いて省察と対話を行う協働学習の試行を通じ、この方法の実効性を確認できたこと、効果的な協働学習には心理的安全性が重要であることを見出したことには意味がある。また、看護管理者が直面するマネジメント上の困難や学習ニーズ等が明らかとなった。これらは医療組織内で看護管理者を育成する仕組みを構築していく上で意義がある。

研究成果の概要(英文)：This study is focused on the development of a learning system for integrating management practice and knowledge through reflection and dialogue through collaborative learning for nurse managers and pre-middle managers such as chief nurses and deputy chief nurses. Due to the COVID-19 pandemic, the research plan was revised to ensure its feasibility. The proposed collaborative learning method was tested several times with nursing managers. “Psychological safety” was found as a necessary requirement for effective collaborative learning. The learning needs of nursing managers were qualitatively demonstrated in the study.

研究分野：看護管理

キーワード：看護管理学 マネジメント 人材育成 省察 対話

### 1. 研究開始当初の背景

看護師にとって健康的に働き続けられる職場環境、即ち Healthy Work Environment (HWE) であるかどうかは、看護の質や看護職の健康状態・職務満足・就業継続行動等に影響する。HWE の主要要素に看護師長のリーダーシップ等があり、これは HWE 実現の要でもある。しかし看護師長の多くは、実践者としては熟練しているが、必ずしも十分な準備をした上でマネジャーに就任しているとは限らない。

経営学者の Mintzberg は、企業等のマネジャーの丁寧な観察に基づく複数の研究から、マネジメントを学ぶ上で「自分の経験を省察し他のマネジャーと共有すること」の重要性を導き、省察と対話を、現役マネジャー育成のための大学院教育や実践の場で用いるツール開発に応用し実績をあげている。しかしこれらは、主に企業向けに開発され、日本の看護組織に応用するには、看護組織や当事者のニーズに応じた内容や方法への修正が必要である。

### 2. 研究の目的

当初の目的は、HWE 実現の要である看護師長に着目し、看護師長とその前段階の主任・副看護師長等のプレミドルマネジャー層それぞれを対象に、(1)協働学習による省察と対話を通じてマネジメント実践と知識を統合させる仕組み(協働学習型マネジメント力育成システム:M システム)を開発すること、また M システム開発過程において、(2)医療機関における看護管理者育成の実態を把握すること、(3)看護組織のマネジャー育成ニーズと当事者の学習ニーズの明確化、(4)M システム導入効果の評価指標を開発すること、であった。

### 3. 研究の方法

研究の初年度後半、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の世界的流行が始まり、研究対象である看護職および所属する医療機関はその対応に追われ、大学等研究機関においては倫理審査委員会が一定期間開催されない等の状況となった。そのため、COVID-19 の流行状況を注視しながら、研究を開始できる機会を見極めようとしたが、流行状況がおさまる気配がなかったため、でき得る限りの手段を尽くして当初の研究目的を達成できるよう、規模や対象を見直して研究方法を工夫・修正しながら本研究に取り組んだ。以下に示したすべての取り組みは、倫理的側面に十分に配慮して行い、質問紙調査やインタビュー調査は、倫理審査委員会での承認後に実施した。

#### (1) 協働学習による省察と対話を通じたマネジメント実践と知識を統合させる学習

当初の計画では、マネジャーの学習ニーズを把握する質問紙調査とインタビュー調査を行って、M システムにおいて協働学習する内容群を作成し、当事者パネルによる協議等を経て M システム試行版を作成して、2 年目以降に M システムを試行して修正し、最終年度に完成させる予定であった。しかしながら、COVID-19 流行により質問紙調査の実施や医療機関への介入が困難な状況が続いたため、看護管理者の参加が多い学会において、省察と対話を通じてマネジメント実践と知識を統合させる協働学習による学習方法を試験的に実施するにとどめた。2019 年度と 2022 年度は対面で実施し、2020 年度はウェビナーにより実施した。

#### (2) 医療機関の看護管理者の育成の実態と直面するマネジメント上の困難

COVID-19 パンデミックのため、医療機関で働く看護師を対象として実施予定であった質問紙調査を行うことをあきらめ、過去に実施した質問紙調査への看護管理者 409 人分の回答を解析し、看護管理者が日頃直面しているマネジメント上の困難の内容、それを解決するためにとっている手段等についての実態を把握した。

#### (3) 看護組織の看護管理者の学習ニーズの明確化

##### インタビュー調査の実施

前述の(2)と同様に COVID-19 パンデミックのため、予定していた医療機関に所属する看護管理者等を対象とした、看護管理者育成ニーズや当事者の学習ニーズに関する質問紙調査は行わず、看護管理者に対する学習ニーズに関するインタビュー調査を行った。機縁法によりインタビュー対象者を募り、予め郵送しておいたインタビューガイドをもとに、対象者ごとに約 1 時間の半構造化面接を行った。質問内容は、「管理職としてマネジメントを行う際に困っていることはどのようなことか(看護管理者が抱えるマネジメント上の困難)」「それらを解決するために、何をしているか(マネジメント上の困難を乗り越えた方法)」「困難等に対して、どのような知識があると良いか、どのようなことを学びたいか(学習ニーズ)」であった。COVID-19 の流行が続いていたことから、対象者数を、協力が得られる範囲の人数にとどめたため、最終的なインタビュー協力者は 5 人であった。実施期間は 2020 年 8 月から 2021 年 3 月であった(COVID-19 の流行状況を注視しながら、時間をかけてリクルートを行った)。インタビューは、対象者の希望に基づいて、Zoom を活用してオンライン面接として行うか、換気を十分に行いながら対象との

距離を取って対面で行った。インタビュー内容は、対象者の同意を得て録音した。

#### 質的分析

インタビューで語られた内容の逐語録を作成し、「看護管理者が抱えるマネジメント上の困難」「マネジメント上の困難を乗り越えた方法」「学習ニーズ」に関して語られている内容を抽出し、意味内容の類似するものを集めてコード化、各コードの意味内容の類似しているものをサブカテゴリ化し、さらに共通性や類似性を検討しながらカテゴリ化を行った。こうした一連の質的分析は、研究者3名で合意が得られまで討議を行いながら進めた。

#### 4. 研究成果

COVID-19 パンデミックの影響を受け、研究期間を通じて、病院で働く看護管理者を対象にした大規模な調査や積極的介入等を控えたため、目的(4)については成果を得ることができなかったが、その他の目的については一定程度の成果を得ることができた。

##### (1) 協働学習による省察と対話を通じたマネジメント実践と知識を統合させる学習

協働学習による省察と対話を通じたマネジメント実践と知識を統合させる学習方法を模した形で、看護管理者が多く参加する学術集会において交流集会を3回実施した。交流集会では、マネジメントに活用できる知識を提供し、他の参加者と小グループをつくって、提供された知識をもとに、自身のマネジメント実践を省察し他のメンバーとの対話を行った。各交流集会では、「マネジャーが備えておくべき3つの特性(自己を評価する)」「(2019年度)」「首尾一貫感覚(Sense of Coherence: SOC)」「(2020年度)」「心理的安全性」(2022年度)といった知識を用いて看護管理者同士の省察と対話による協働学習を行った。各交流集会後に、参加者から協働学習への期待や改善点、効果的実施のための要件に関するコメント等を得て、次の交流集会の企画に活用した。

協働学習の方法として、ウェビナーでは参加者間の双方向の意見交換が難しかった。看護管理者間で省察と対話を行うには、小グループで意見交換のできる対面またはオンライン(ブレイクアウトルームの活用など)による方法が効果的であると考えられた。

協働学習を誰と行うかについては、2019年度の交流集会では、他組織の管理者が良いとする参加者が相対的に多かったが、2022年度は、同組織の管理者との実施を希望する参加者が相対的に多かった。2019年度に用いた知識は、自己の特性を評価する内容であり、2022年度に用いた知識は、組織やチームを評価する内容であった。このことから、協働学習を誰と行うことが適切であるかは、学習に用いる知識の内容や参加者の所属組織の特性などに依る可能性が考えられた。

なお、2019年度の交流集会参加者の意見から、省察と対話を活用した協働学習を行うには、学習者間(学習グループ内)に「心理的安全性」のような、安心して質問したり意見を言ったりできるような学習グループの特徴あるいはメンバー間の関係性が必要であることが示唆された。そこで、心理的安全性の尺度として米国で開発された質問群について、米国人開発者の承諾を得て翻訳して日本語版を作成し、原版の英語と逆翻訳された英語の等価性を開発者に確認してもらった。また、「心理的安全性」という概念を、看護管理者や医療機関の看護部に広く知ってもらうため、看護管理者層を読者とする商業誌に次の内容をまとめて紹介した。心理的安全性の質問群を開発した米国人研究者が執筆した、心理的安全性の意味や先行研究をまとめた論文を翻訳し、同誌面上で紹介した。心理的安全性のあるグループで協働学習を行っている看護管理者メンバー3人へインタビュー行って内容をまとめ、紹介した。看護師になって病院で働き始めて2年目の看護師にインタビューを行い、就職1年目の頃を振り返ってもらい、新人看護師にとって心理的に安全な環境について、「組織の構造的要素」「対人関係的要素」の観点から情報を整理し、心理的に安全であったことで組織学習につながった事例、心理的に安全ではなかったことで新たなインシデントが起こっていたかもしれない事例を紹介した。

##### (2) 医療機関の看護管理者の育成の実態と直面するマネジメント上の困難

看護師長409人のうち、もともと看護師長を希望していた者は2割未満であり、看護師長就任前に看護師長教育・研修を受けた者は3割程度であった。看護管理者がマネジメントに困難を感じる頻度は、常に・しばしばで半数を超え、看護ケアやサービスの質向上、人材育成、安全管理ほか、様々な課題に直面していた。マネジメント上の困難を経験する頻度の高低には、看護師長経験年数、相談相手、上司のソーシャルサポート、困難の内容が関連した( $P<0.05$ )。

##### (3) 看護組織の看護管理者の学習ニーズなど

インタビュー対象者5人は、女性100%、平均年齢53.6歳、看護経験年数は平均28.0年、看護管理者経験年数は平均14.0年であった。面接時間の平均は56.0分であった。職位は、看護師長3人、副看護部長1人、看護部長1人であった。

看護管理者が抱えるマネジメント上の困難は、10のカテゴリと、26のサブカテゴリで構成された。以下、カテゴリは【 】、サブカテゴリは《 》、コードは[ ]で示す。看護管理者が抱えるマネジメント上の困難のカテゴリには、【スタッフとの対人関係】自身の感情コントロール】【部下の育成】【客観的な評価指標がなく、自身の取り組みを評価できない】などが含まれた。

マネジメント上の困難をのり越えた方法は、7つのカテゴリと、17のサブカテゴリで構成された。マネジメント上の困難をのり越えた方法のカテゴリには、【他者と話し合い助言をもらう】【他者の協力を得る】【実践してリフレクションを繰り返し行う】【資料や文献を読み、新しい情報・概念を習得する】などが含まれた。

看護管理者としての学習ニーズは、2つのカテゴリと、11のサブカテゴリで構成された。看護管理者としての学習ニーズのカテゴリは、【管理職の役割遂行に必要な知識】【対人関係に必要な知識・技術】であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Ayano Ito, Kana Sato, Yoshie Yumoto, Miki Sasaki, Yasuko Ogata	4. 巻 10
2. 論文標題 A concept analysis of psychological safety: Further understanding for application to health care	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nursing Open	6. 最初と最後の頁 467-489
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/nop2.1086	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Yasuko Ogata, Kana Sato, Yoshimi Kodama, Noriko Morioka, Kikuko Taketomi, Yuki Yonekura, Kimiko Katsuyama, Sachiko Tanaka, Midori Nagano, Yoichi M. Ito, Katsuya Kanda	4. 巻 8(5)
2. 論文標題 Work environment for hospital nurses in Japan: The relationships between nurses' perceptions of their work environment and nursing outcomes	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Nursing Open	6. 最初と最後の頁 2470-2487
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1002/nop2.762	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 緒方 泰子	4. 巻 31(5)
2. 論文標題 【心理的安全性 個々の強みを生かし、変化への適応力が高いチームをつくる】看護管理者にとっての心理的安全性の意義、活用可能性と課題	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 看護管理	6. 最初と最後の頁 388-391
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 藤波 景子, 佐々木 美樹, 緒方 泰子	4. 巻 31(5)
2. 論文標題 【心理的安全性 個々の強みを生かし、変化への適応力が高いチームをつくる】新人看護師が率直に意見や疑問を言える心理的に安全な環境とは 2 年目看護師のインタビューから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 看護管理	6. 最初と最後の頁 402-407
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yasuko Ogata, Kana Sato, Miki Sasaki, Keiko Fujinami, Taisuke Togari, & rest of the WENS-J (part-II) project team Yuki Yonekura, Kimiko Katsuyama, Sachiko Tanaka, Midori Nagano, Yoichi M. Ito, Katsuya Kanda	4. 巻 30
2. 論文標題 Association between nursing practice environment and sense of coherence among staff nurses: A cross-sectional study in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Journal of Nursing Management	6. 最初と最後の頁 3149-3159
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jonm.13733	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kida, R., Fujinami, K., Yumoto, Y., Togari, T., & Ogata, Y.	4. 巻 61
2. 論文標題 The association between burnout and multiple roles at work and in the family among female Japanese nurses: A cross-sectional study	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Industrial health	6. 最初と最後の頁 195-202
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.2486/indhealth.2021-0280	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 緒方泰子	4. 巻 26
2. 論文標題 心理的安全性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 CARLISLE	6. 最初と最後の頁 2-3
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計11件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 緒方泰子, 佐藤紀子, 武富貴久子, 佐藤可奈, 米倉佑貴, 湯本淑江, 森岡典子
2. 発表標題 インフォメーションエクスチェンジ 看護組織におけるマネジメント力育成に向けた協働学習の可能性 ~知識と経験の統合~
3. 学会等名 第23回 日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 緒方泰子, 武富貴久子, 西岡みどり, 網中真由美, 武村雪絵, 長井聡子, 木田亮平, 森岡典子, 米倉佑貴, 菅田勝也
2. 発表標題 看護職の Healthy Work Environment 特性の解明に向けた前向き研究 (第3報)
3. 学会等名 第78回日本公衆衛生学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 緒方泰子, 佐藤紀子, 武富貴久子, 佐藤可奈, 米倉佑貴. 看護師長がマネジメントにおいて感じる 困難とその 内容および精神的健康との 関連
2. 発表標題 看護師長がマネジメントにおいて感じる 困難とその 内容および精神的健康との関連
3. 学会等名 第57回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 緒方泰子, 佐藤紀子, 武富貴久子, 佐藤可奈, 湯本淑江, 佐々木美樹, 伊藤絢乃, 藤波景子
2. 発表標題 インフォメーションエクステンジ18 マネジャーの孤独感は和らぐか: 看護組織におけるマネジメント力育成に向けた協働学習の可能性
3. 学会等名 第24回 日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 緒方 泰子, 佐々木 美樹, 藤波 景子, 佐藤 可奈, 戸ヶ里 泰典
2. 発表標題 マグネット病院特性と看護職者の首尾一貫感覚 (SOC) との関連: 経験年数に着目した検討
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 佐々木美樹, 緒方泰子, 藤波景子, 戸ヶ里泰典
2. 発表標題 看護師長によるエンパワリング行動とワーク・エンゲイジメント、心理的エンパワーメントの関係
3. 学会等名 第59回日本医療・病院管理学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Satoko NAGAI, Yasuko OGATA, Takeshi YAMAMOTO
2. 発表標題 The structure of Antecedent Factors for Work Engagement for nurses in Japan: Reliability and Validity
3. 学会等名 American Psychological Association 2021 Virtual Convention (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Ayano Ito, Yasuko Ogata, Satoko Nagai, Yuki Yonekura
2. 発表標題 The Relationship between Work Engagement, Organizational Justice, and the Interaction Effect of Fatigue in Hospital Nurses
3. 学会等名 The 25th East Asia Forum of Nursing Scholars (EAFONS) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山崎綾香, 佐々木美樹, 緒方泰子,
2. 発表標題 看護管理者のマネジメント上の困難と学習ニーズに関する質的分析
3. 学会等名 第26回 日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2022年



1. 発表者名 緒方泰子, 佐々木美樹, 伊藤絢乃, 佐藤可奈, 藤波景子, 武富貴久子, 佐藤紀子
2. 発表標題 インフォメーションエクステンジ18 「心理的安全性」とは何か：看護管理者のマネジメント力を高める協働学習への応用
3. 学会等名 第26回日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 武富貴久子, 緒方泰子, 佐々木美樹, 米倉佑貴, 田中理子
2. 発表標題 看護実践環境と看護師の心理的エンパワーメントの関連
3. 学会等名 第26回 日本看護管理学会学術集会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	佐藤 紀子  (Sato Noriko)  (80269430)	東京慈恵会医科大学・医学部・教授   (32651)	
研究分担者	武富 貴久子  (Takeromi Kikuko)  (80543412)	札幌市立大学・看護学部・講師   (20105)	
研究分担者	米倉 佑貴  (Yonekura Yuki)  (50583845)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・准教授   (32633)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	湯本 淑江  (Yumoto Yoshie)  (00755184)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・助教    (12602)	
研究分担者	森岡 典子  (Morioka Noriko)  (70805746)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・准教授    (12602)	
研究分担者	佐藤 可奈  (Sato Kana)  (00757560)	東京医科歯科大学・大学院保健衛生学研究科・非常勤講師    (12602)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関